

伝えたい

まちの遺産

門間用水 (上野用水)

門間用水は、元和4年(一六一八)上野村(当時は杣山村)の井元藤兵衛が、福井藩主松平忠直に直訴し、家老本多富正の仲裁を得て造られた用水です。日野川をせき止め取水し、幅約13m、延長約2kmの水路を造る大事業でした。



▲途中の川には埋め樋を設け水を流していた

日野川右岸の日野山から杣山のふもとにかけての広々とした平野では、豊かな田園風景が見られますが、かつては水利の便が悪く、作物がとれない荒地も多かったようです。藤兵衛はこうした慢性的な水不足を解消し、土地の生産性を向上させようと用水工事を計画しました。日野川(門間赤岩付近)から上野・二月田までの大工事であり、途中の阿久和川、金粕川では水路を横断させる難工事も予想されましたが、藤兵衛は3年あまりの歳月をかけ、地形を調査して水路の図面を引き、入念な計画を立てました。

しかし、上野村まで水を引くためには鯖波・阿久和・中小屋村の田畑を潰して水路を造らなけ



▲門間用水の推定位置(明治時代の地図をもとに復元)

ればならず、当時の上野村(本多領)と他の3村(福井藩領)とが領地違いであったことも障害となり、役所へ用水工事を願い出てもなかなか聞き入れてはもらえませんでした。そのため、藤兵衛は最後の手段として藩主への直訴を決行したのです。藤兵衛の勇氣ある行動と用水工事に対する熱意は、藩主に認められました。直訴から3ヵ月後、本多富正の仲介で3村との用水に関する取り決めがなされ、用水工事が承認されたのです。この用水の完成により、上野村における新田開発の基盤が築かれ、安定した収穫が得られるようになりました。

400年近く田んぼを潤し人々の生活を支え続けてきた門間用水は、日野川用水パイプラインの完成によりその役目を終えました。今では日野川の取水跡付近にある上野用水石碑や上野の榮泉寺に残る藤兵衛の功績碑が、村の発展に寄与した先人の偉業をたたえています。

食改

みつばちゃん 知恵袋

宇津尾区で昔から作られている料理です。お祭りやお盆、正月に作ります。懐かしいふるさと味の味ががでしょうか。

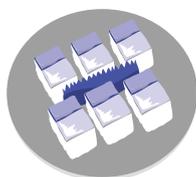
古くから北前船で運ばれた“にしん”を使ったなれ寿司。生姜の香りとにしんの旨味がマッチして、とても美味しいです。



「みがきにしんのなれ寿司」

《材料(10人分)》

- にしん …… 500g
- 片栗粉 …… 大さじ1
- 米 …… 5カップ
- 生姜 …… 30g
- 麴 …… 大さじ3
- 塩 …… 少々
- 笹の葉 …… 30枚



《作り方》

- ①にしんは、米のとぎ汁につけて洗い、3cmくらいに切って熱湯をかけておく。
- ②米は、普通に炊いておにぎりの塩加減で混ぜ、冷やして麴を混ぜる。
- ③生姜は、2cmのせんきりにする。
- ④木製の型に笹の葉を敷いて、ごはんと生姜・にしんをサンドにして詰める。笹の葉を上へのせ、重石をして笹ごと取り出し切り分ける。